

学校だより

しらかわ



飯豊町立添川小学校

2021. 12. 23

第17号

いきいき なかよく ほこりを持って

実り多い一年 ご協力に感謝申し上げます

保護者の皆様、今年も本校の教育活動やPTA活動に、多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。2学期は感染症の拡大も押さえられ、子ども達の素晴らしい成長につながることができました。さて、今年も本校十大ニュースを校長の誠に勝手な編集により、順不動で発表いたします。

今年も添川小は、子どもも教師も保護者も地域も、みんなで歩んだ素晴らしい一年でした。

<十大ニュース（順不同）>

- ◎ 緑の少年団、ついに全国表彰！「全国緑の少年団連盟会長賞（みどりの奨励賞）」に輝く！
- ◎ 学校・PTA・地域・安全協会・防犯協会等、連携の成果。「山形県交通安全対策協議会長賞」に輝く！
- ◎ 52名の先生方をお迎えして学校研究発表会。子ども達の主体的に生き生きと学ぶ姿が絶賛される。
- ◎ どの学年も工夫盛りだくさんのしっかりした学習発表会。一人一人の活躍が光る。
- ◎ 練習や準備も自分たちで時間を惜しんで取り組んだ運動会、町陸上大会、持久走大会。
- ◎ 地域の方々、ご来賓の方々のご来校いただけるようになる。やはり、添川小学校は地域の学校！
- ◎ 「最上川200キロを歩く」「ヨモリニャぱーく」や田植え、稲刈り、緑の少年団等、新聞紙上賑わす。
- ◎ 今年も読書活動を推進。PTA「親子で読書運動」、公民館「イーデトーヴ文化活動」の連携が広がる。
- ◎ 学校後援会のご支援で、体育館に掲げている学校教育目標がリニューアル。
- ◎ 実習田で米づくり、畑で里芋づくり等、今年も地域の先生方のいつも若々しいご指導に大感謝！

このほかにも、いろいろあります。

コロナウイルスに負けない子ども達、全員登校日は59日を数えます（12/22現在）。夏休み作品展に気合いの入った素晴らしい作品多数！おかげで子ども県展をはじめ子ども達の入賞多数！年間を通して充実したきらり委員会とさわやか委員会の活動。「あいさつ体験プロジェクト」も素晴らしい取り組み。クラブ活動では「逃走中」を子ども達が計画。学校研究発表会では「自習」の様子も絶賛！「きらりの花束」では子ども達の心の成長が光りました。

それでは、皆様、どうぞよいお年をお迎えください。



学校研究発表会の授業の様子

【おめでとう】 令和3年度西置賜地区読書感想画コンクール
（敬称略） 小学校高学年の部 特選 6年 尾形 実莉

<皆様、どうぞよいお年を> 12/25（土）～1/10（月）、冬季休業になります。なお、閉庁期間（12/28～1/4）の緊急連絡は、飯豊町教育委員会（090-4317-8038）へお願いいたします。1月11日（火）の3学期始業式に、みんな元気に会えますように。

1月の予定

1	土	元日	11	火	三学期始業式 一斉下校	21	金	1・2年スノーランド クラブ活動(スキー)
2	日		12	水	ALT(中高)	22	土	
3	月		13	木	ALT(高) 書き初め大会 飯豊中説明会	23	日	
4	火	閉庁	14	金	生活リズム強調週間(~21) 避難訓練	24	月	学習強調週間(~2/22) クラブ活動(スキー)
5	水		15	土	添川読書の日	25	火	ALT(中高) 全校ぐんぐん
6	木		16	日		26	水	ALT(中高) クラブ活動(スキー) 全校国語テスト いなほN会議
7	金		17	月	クラブ活動(スキー)	27	木	ALT(高)
8	土		18	火	ALT(中高) 委員会活動 P事務局会	28	金	全校スキー
9	日		19	水		29	土	
10	月	成人の日	20	木	ALT(高)	30	日	
						31	月	クラブ活動(スキー)

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために(その25)

僕に音楽を教えてくれた人

僕の母は、父と結婚する前は声楽を勉強しており、オペラも大好きだったという。そのため、僕と兄は、小さいときからクラシック音楽を教えられた。

生後1歳2か月のときから母は僕を膝の上に乗せ、音感教育を始めていた。音感教育といっても、そう仰々しいものではなく、日に3回、3分くらいずつ、ドミソ・ドファラ・シレソの和音を繰り返し聴かせるというものである。

また、2歳になる頃からピアノのレッスンも始まった。おかげで僕は、指揮者として必須の条件である「耳のよさ」を、幼い頃から知らず知らずのうちに身につけることができた。

しかし、母がとても厳しかった上、外で泥んこになって遊びたい盛りだったこともあって、僕は鍵盤を叩くことがあまり好きではなかった。それならどうして続けていたのか。一つは、6歳上の兄にくっついていかけたのと、日曜日に電車に乗ってピアノのレッスンに行けること、そしてもう一つ、「レッスンの後、アイスクリームをかうてもらえるもん」というのが答えである。ピアノのレッスンといっても、その程度のことだった。それにしても、ピアノの先生は、こんな子供に根気よく教えてくれたものだ。

しかし、兄は僕以上のスパルタ教育への反動で、クラシック嫌いになってしまった。兄は中学に入るとすぐにピアノを止めて、剣道の世界に進み、五段を取るまでの強豪となったが、小学生の僕が毎日ピアノに向っていると、「そんなの早うに止めてしまい。オレも止めてものすごく楽になったし」と言っていた。

しかし、兄の「止めると楽になるでえ」という誘惑にも負けず、毎日の練習を苦痛に感じながらもピアノを続けていたのは、やはり音楽が好きだったからだと思う。

『僕はいかにして指揮者になったのか』、佐渡 裕著、新潮社

佐渡さんは、ウィーン・トーン・キュンストラ・管弦楽団音楽監督など、今、最も注目されている日本人指揮者。私は、元気がない時は(あっても)、佐渡さんの指揮する「ブラスの祭典ライブ」(DVD)や「ブラスの祭典」(CD)や佐渡さんの書いた本で元気になる「サドラー」です。この年末は「佐渡の第九 兵庫熱狂ライブ」(DVD)がいいかな、娘と音楽して遊ぼうかな、と思っています。皆様、どうぞよいお年を!

